

press release

戦後80年
戦争と美術、
美術と平和

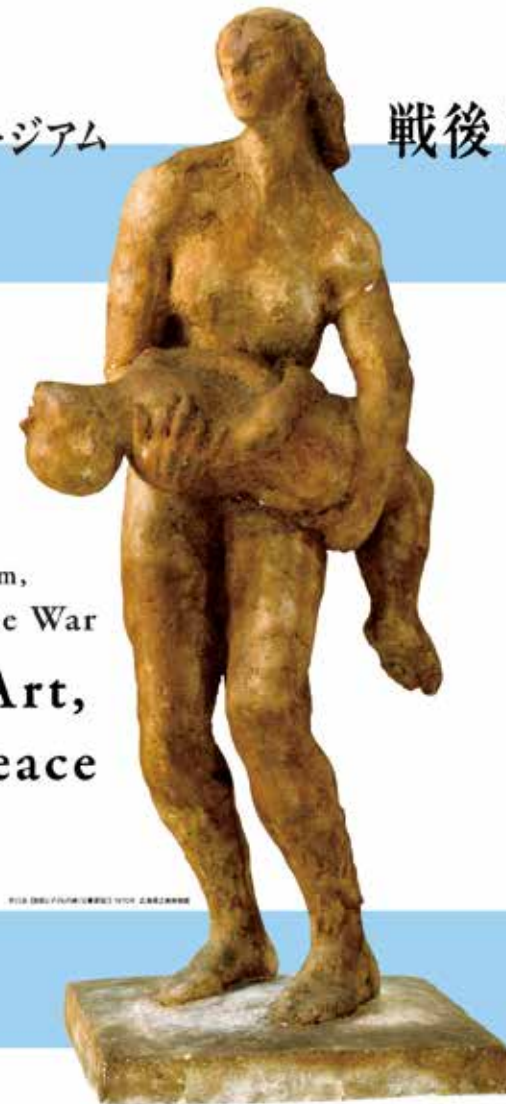
サマーミュージアム
Summer Museum,
80 Years After the War
War and Art,
Art and Peace

COLLECTION EXHIBITION

サマーミュージアム

戦後80年
戦争と美術、
美術と平和

Summer Museum,
80 Years After the War
War and Art,
Art and Peace



写真：田嶋千代子/東京国立近代美術館蔵、写真：田嶋千代子/東京国立近代美術館蔵

2025 7/26(土) ▶ 10/5(日)

【開館時間】9:00～17:00 ※入場は開館の30分前まで
※9月7日までの全曜日は20時まで開館、9月8日からの全曜日は19時まで開館
【休館日】9月8日(日) ※8月25日(日)は展示替えのため閉館
【入館料】一般510(410)円／大学生310(250)円 ※()内は20歳以上の団体
【観覧券共通券】一般660円／大学生350円 ※特別観覧は資料金
○高校生以下無料 ○当館で開館中の特別観覧券にて無料でご覧いただけます。
○障害者手帳をお持ちの方や65歳以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料(1階観覧受付でお申し渡ください)。

フリートークデー

8/17(日)

9/21(日)

自由に感想を話しながら
観覧会を楽しもう!

所蔵作品展

第2期

<https://www.hpam.jp/>



広島県立美術館 2階展示室
Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-8004 広島県広島市東区三丁目2番2号
TEL 082-221-0296 FAX 082-221-0488



【概要】

所蔵作品展第2期

「サマーミュージアム 戦後80年 戦争と美術、美術と平和」

当館に隣接する大名庭園である名勝・縮景園の一角には、かつて観古館という、日本でも最初期に設立された私立美術館がありました。観古館は、旧広島藩藩主の浅野家が有する美術品を一般に公開したもので、戦前の広島の豊かさを象徴する存在のひとつでした。しかし、戦中には戦時体制に取り込まれ、1945（昭和20）年8月6日、原爆によって失われました。それから23年後の1968（昭和43）年、観古館があった場所の近くに当館は開館しました。

美術は社会的あるいは政治的動向と無縁ではありません。時代の価値観を先取り、あるいは表現し、時に激しく反発しながらその営みは行われ、作品にはそれぞれの時代を生きた作家の思索や想いが刻まれています。

本展は、第二次世界大戦期の欧米での芸術活動や広島を中心とした戦前・戦中、そして戦後に制作された作品を紹介することで、戦争と美術、美術と平和について再考しようとするものです。

また、当館が縮景園の一角に建てられたという場所性にも注目し、観古館のあった縮景園が原爆投下後に避難所・救護所となり、ここで多くの命が失われた歴史を紹介するコーナーも設けました。

本展が、今、私たちが展覧会を見るこの場所から、それぞれが過去を見つめ、未来を問う契機となることを願って。

【第1展示室】

第1章 戦禍の西洋世界

本年は、第二次世界大戦(1939-1945)終戦から80年の節目にあたります。所蔵作品展「サマーミュージアム 戦後80年 戦争と美術、美術と平和」の導入となるこの展示室では、第二次世界大戦の渦中に制作された国外作家の作品を中心に紹介し、戦前・戦後の広島を主題とする次室以降へと引き継ぎます。

世界規模に戦域が拡大したこの大戦は、総力戦として多くの国民が動員され、数千万人もの命が奪われ、芸術家も例外なく戦禍に巻き込まれました。例えば、国家公認の戦争画家となったヘンリー・ムーアは、シェルター（防空壕）に避難する人々を描きました。日系人であったイサム・ノグチは、

日米の開戦に苦悩し、自主的に日系人の強制収容所に入ったものの、日米の狭間で翻弄されました。ナチス・ドイツによってその作品に「退廃芸術」の烙印を押されたパウル・クレーは、美術学校での教職を失い、亡命先にて終戦を待たずに不遇のまま没しました。祖国スペインへの爆撃に心を痛めたパブロ・ピカソは、その惨状を《ゲルニカ》に代表される作品によって表現しました。アリスティード・マイヨールは、牧歌的で平和な風景を残しましたが、それらの作品もドイツ軍との緊張関係の中で生み出されたものでした。

戦時下における芸術家たちの活動は一様ではありませんが、いずれも戦争に翻弄されたことは間違いありません。戦時下の作家たちがいかに生きて、いかに作品を残したのか、どうぞご覧ください。



パウル・クレー
《新ヨーロッパ版画集 第1集
内なる光に照らされた聖人》
1921年

【第2展示室】

第2章 戦前・戦中という時代

本章では、広島を中心に日本へ舞台を移し、昭和初期から終戦にいたる激動の時代において、多様に展開した美術表現の姿をご紹介します。

戦前の広島で多くの美術展覧会の会場となったのは、現在の原爆ドームでした。この建物は、もともとは広島県物産陳列館（1915年建設、1921年から広島県立商品陳列所、1933年から広島県産業奨励館）と呼ばれ、戦前の広島を象徴する存在でした。

そこでは、県内最大規模の展覧会であった広島県美術展や広島美術史上で重要な芸州美術協会展等、多くの展覧会が開催され、都市の活気を反映するかのようにはげやかな芸術動が展開されていました。

また、大正後期から昭和初期は全国的にヨーロッパのモダンアートの影響が広がり、さらには前衛芸術の登場やプロレタリア美術の振興により多様な美術運動が展開された時代でした。しかし、1937（昭和12）年に盧溝橋事件に端を発する日中戦争が勃発、翌年に国家総動員法が成立すると、やがて美術も戦時体制に組み込まれていきます。

国威発揚、彩管報国（絵筆（彩管）で国に報いる）のスローガンのもとで時局を反映した作品が作られた一方、次第に自由な表現は抑圧され、画材などは配給制となり、国家による統制・弾圧が

押し進められました。また、日本の大陸進出や戦線拡大に伴って、新たなモチーフとして中国や朝鮮半島などの風景や人々が描かれるようになったのもこの時代でした。



南薫造《元安川》(前期展示)



岡田謙三《北市場》1942年

【第3展示室】

第3章 原爆の記憶

1945（昭和20）年8月6日午前8時15分、広島市に実戦において人類史上初めての原子爆弾が、8月9日午前11時2分には長崎市に2発目が投下されました。爆風、熱線、放射線により両市街地は壊滅し、この年の年末までに広島市ではおよそ14万人、長崎市ではおよそ7万4千人が亡くなりました。

この無差別、未曾有の暴力によって、画家として将来を嘱望されていた岩岡貞美や手島守之輔らの命は絶たれました。生き残った画家たちは、被爆直後に、あるいは長い時間を経て原爆を主題とする作品を描きました。

例えば、福井芳郎は原爆投下直後に燃え盛る広島市街をスケッチし、版画家・朝井清は翌日に入市してその時見た情景を一気に彫り上げました。神田周三、大木茂らは戦後、原爆の後遺症に長く苦しみながら、それぞれの方法で自らの体験や心情を描いています。一方、平山郁夫は悲惨な記憶が思い出されるため久しく広島市内に足を踏み入れることさえできず、ようやく原爆をテーマにした唯一の本画である《広島生変図》を描くことができたのは、被爆から34年後の49歳の時でした。

ここでは、被爆体験の有無を問わず、人間の想像を超える惨禍をいかに表現するかという課題に向き合いながら、生きる意味を見つめ続けた作家たちの作品をご紹介します。

なお、広島を象徴するものとして多くの画家たちが描いた原爆ドームは、1960（昭和 35）年頃より保存を求める声が高まり、1966（昭和 41）年 7 月に広島市議会が原爆ドームの保存を要望する決議を行いました。その後、複数回に及ぶ保存工事や地震対策が行われ、1996（平成 8）年 12 月にユネスコ世界遺産に登録されています。



丸木位里《竹林》1964 年



朝井清《広島の夕焼（サインあり）》1945 年

【第 4 展示室】

第 4 章 戦争と美術、美術と平和

広島・長崎への原爆投下は、人類が核兵器の破壊力を直接経験した出来事でした。そしてそれは、核という新たな脅威にさらされる時代の始まりでもありました。悲しいことに、今もなお、世界各

地で戦争や紛争によって人々の生活は危機に瀕し、多くの生命が不本意に失われています。

多くの作家が原爆を表現する理由は様々です。亡くなられた方々への追悼と供養のため、記憶の継承のため、あるいは戦争への怒りと抗い…。共通しているのは、この惨劇を二度と繰り返したくないという、平和を希求する強い意志と願いではないでしょうか。

そして、彼らの作品には、時代や国境、人種や信条を越えて人々の想像力を揺さぶり、他者と苦しみを共有しようとする力が感じられるのではないのでしょうか。

当館に足を運ばれた方々がそれぞれに作者たちの人生へ想いを馳せ、彼らの作品が発するメッセージを受け止めてくださることを願います。



片岡脩《LOVE PEACE》1985 年



宮川啓五《太田川》2000 年

【ウェルカムギャラリー】

当館では、リニューアルオープン 25 周年を機に、令和 3 年秋に新たな展示コーナーとしてウェルカムギャラリーを設けました。皆さまへの歓迎の気持ちと、「多くの方々の美術への誘いとなるように」との願いを込め、この場所を「ウェルカムギャラリー」と命名しました。当館の顔ともいべき大理石に囲まれた展示室で、分かりやすい作品解説をご用意しています。また、当館の成り立ちをご紹介する動画を展示室の入口で上映しています。

本展では、「これが、県美の広島愛」をテーマに、広島県ゆかりの著名作家である、洋画家のこばやしせんこ みなみくんぞう あいみつ小林千古・南薫造・霞光、日本画家のこだま きぼう おくだ げんそう ひらやま いくお児玉希望・奥田元宋・平山郁夫、彫刻家のひらくしてんちゅう えんつば かつぞう平櫛田中・圓鐸勝三、ろっかく しすい しみず なんざん いまい まさゆき工芸作家の六角紫水・清水南山・今井政之の作品を一堂に展示します。作家を育んだ広島という地域の特性や、作家の広島への想いを伝えるエピソードと合わせて、当館が誇る名品の数々をご覧ください。

また、1 階図書室では美術をテーマにしたマンガコーナーを設けるなど、多くの方々に美術に親しんでいただく場をご用意しています。

美術が好きな方も、これから好きになる方も、どうぞお気軽にお楽しみください。



【関連イベント】

■リレートーク

当館学芸員が各室の見どころをリレー形式で紹介するトークイベントです。

日時：2025年8月8日（金）15:00～（各室10分程度）

場所：2階展示室

講師：藤崎 綾（当館主任学芸員）、神内有理（当館主任学芸員）、
山下 寿水（当館主任学芸員）、岡地 智子（当館主任学芸員）

※要入館券、会場入口でお待ちください。

■インスタライブ配信

閉館後の展示室内からギャラリートークをライブ配信します。（約15分間）

①1章：2025年8月12日（火）17:00～

講師：神内 有理、山下 寿水、角田 新（当館主任学芸員）

②2章：2025年8月26日（火）17:00～

講師：藤崎 綾、神内 有理（当館主任学芸員）

③3章：2025年9月9日（火）17:00～

講師：藤崎 綾、神内 有理、角田 新（当館主任学芸員）

④4章：2025年9月30日（火）17:00～

講師：藤崎 綾、神内 有理、岡地 智子（当館主任学芸員）

■広島市現代美術館との連携インスタライブ配信

日時：2025年8月13日（水）17:00～

講師：松岡 剛（広島市現代美術館）、角田 新（当館学芸員）、藤崎 綾（当館主任学芸員）
神内 有理（当館主任学芸員）

公式インスタグラムはこちら



■対話によるギャラリートーク

所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみんなでお話しながら鑑賞します。

日時：2025年9月21日（日）13:00～14:00

場所：2階展示室

講師：福田 浩子（当館学芸課長）、山下 寿水（当館主任学芸員）

■フリートークデー

2025年8月17日（日）、9月21日（日）

9:00～17:00



子供も大人も自由に感想を話しながら気兼ねなく展覧会を楽しんでいただけるよう、フリートークデーを実施。当日は下記イベントも併せて行います。

●作品を探しに行こう！

当館所蔵品の一部がプリントされた缶バッジを配布します。どの作品プリントか、展示室に作品を探しに行こう。

先着：30名

※事前申込不要 ※要入館券

【縮景園慰霊碑での関連展示】

戦争の悲惨さを語り継ぐとともに、復興した現在の姿の尊さを感じてもらうことを目的として、縮景園の被爆当時の状況を描いた作品をご覧ください。

閲覧方法：園内の慰霊碑横の掲示板に作品につながるQRコードを掲示（広島平和記念資料館平和データベース「被爆80年縮景園と原爆」）



【縮景園慰霊碑付近での被爆ピアノの演奏会】

演奏会日時：令和7年7月26日（土）11時30分頃～

演奏場所：縮景園 慰霊碑前

この演奏会は、「ひろしま被爆ピアノ友の会」の手島秀昭代表と同会のメンバーで調律師の矢川光則さんによる試みで、爆心地から約1.8～3キロで被爆したアップライトピアノを慰霊碑付近に持ち込んで演奏するものです。令和6年1月から被爆80年となる令和7年8月まで、広島市内約200カ所を巡り、最後に平和記念公園（広島市中区）の原爆慰霊碑そばで演奏される予定です。

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館へ提出していただき、
1週間程度お時間を頂きます。ご了承ください。

※展示室内での筆記具の使用は鉛筆のみでお願いします。（ボールペンなど使用不可）

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町 2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 神内有理

総務課 広報担当 一色 直香

公式 SNS はこちらから

